

山行報告

加西市・鎌倉山行者道ハイキング

日時：3月20日(木、祝) リーダー：今山正 参加者数：19名

参加者：阿蘇・上田・内海・尾内・河合(信)・河合(由)・北川・砂川(延)・田中(庸)・中嶋・西村・船津・松尾(俊)・松尾(美)・松下・待場・森永・渡邊

コース：高砂運動公園 7:15～河内町公会堂 8:15(ストレッチ) 8:45～普光寺分岐 9:50～鉢尾峰 10:15～柳峠 11:05(休憩) 11:15～鎌倉山山頂 11:45(西ののぞき--磨崖仏)・(昼食) 12:35～河内城址 13:45～河内町公会堂 14:15～普光寺 14:45
～根日女の湯 15:00(入浴) 16:05～富久錦酒造 16:30(見学) 17:00～高砂運動公園 17:35

鎌倉山行者道コースに参加して

内海

早春、昨夜からの風雨で今朝はどうかと外を見ると、寒いが回復しそうなので一安心。加西の鎌倉山初めて聞く山で、加西と聞けば法華山か古法華ぐらいの知識しかなかった。

いずれにしても近くで知らない山に登りたく今回参加をお願いしました。運動公園集合時は雨は殆ど止み、マイクロバスで県道高砂和泉線にて加西市河内町公会堂に着く。この辺りの民家は立派なおちついた造りが多く、古代「播磨国風土記」に賀毛の郡、河内の里と記載されている歴史ある里だそうです。

ナビゲーターの尾内さんの案内で準備を整え山登りに向かう。民家を左右に見ながら、しばらく歩くと登山口「是より行者道」の標識が見え、いよいよ山登りにかかる。昨夜の雨の影響もさほどなく野菜や果樹畑を過ぎ護摩堂さして愛宕神社と登る。

この辺りドングリ系の落葉樹が多くドングリも落ちており、枯葉が山道を埋め尽くし、歩くのにサクサクと心地よい。一方ほとんどの松は枯れはてている。これも自然といえればそれまでですが。

普光寺の分岐道を過ぎ大天井(鉢尾山)に到着「大天井 460.5m」の標識があり、この尾根コースの最高峰ここまで歩くと体も温もり水を飲みながら休憩。眼下の景色を眺めながら大日如来石仏を拝み柳峠、鎌倉山頂 452.7mに着く昼食を我慢して直ぐ「西ののぞき」を覗くため急坂を下りる。

磐座には磨崖仏が刻まれており、こんな難所に「修行」としても立派なものだ。

山頂に戻り昼食。山頂あたり風が冷たかったが眼下の播磨平野の広がり、この景色を見るために来てよかった。山登りの目的はこれかもしれない。昼食後、西尾根から泥濘道を滑りながら里道に下山、公会堂までの段々畑、溜池、小さな水路田の畦など、きれいに手入れされており、これらの風景は心を癒してくれます。遠景を含めたのどかな山里はいつまでも在ってほしいものです。

楽しかった一日、ありがとうございました。



日生諸島めぐり

日時：4月5日(土)～6日(日) 一泊二日 リーダ：砂川 参加者数：13名

参加者：今山・内海・河合(信)・河合(由)・北川・戸野本・松尾(俊)・松尾(美)・松下待場・森永・舩賀

コース

5日：JR 姫路 9:09～日生 9:59～日生港 10:30(船)～**大多府島** 11:00～自然探求路めぐり 展望台 11:50(昼食) 12:05～勘三郎洞窟跡 12:15(探検) 12:35～散策～元祿防波堤 13:25～連絡船 14:10～**頭島** 14:20～たぬき山展望台 14:50～ペンションおやじの海 15:25

6日：ペンション出発 9:00～頭島大橋 9:30 **鹿久居島**～「まほろば」管理棟 11:20(昼食) 12:15～山頂展望台 12:35～中央公園 13:40(船待ち休憩) 15:00～千軒湾棧橋 15:25～日生港 15:35(解散)

感想文

日生諸島には子供が小さい頃、鹿久居島へみかん狩りに行き、年月が経ち、三年前の夏には頭島へ孫を海水浴に連れて行った事があります。

この度、日生諸島の山行が決まった時、懐かしさの余り迷わず参加することを決めました。

当日はお天気にも恵まれ、久々の日生を楽しみに主人を一人放っぼり出して家を後にしました。

前回納山会の時、カップを忘れ雨に降られた苦い経験があったので、今回はどんなに良い天気でも忘れず入れてきました(きっと降らないだろうと、おもいつつも・・・) JR 姫路で全員が車内合流し、混み合った電車の中から見る満開の桜を眺めながら一路日生へ。

日生駅から港まで歩いて 10 分、港から大多府島へ渡り海を右手に見ながらの散策です。

桜・菜の花・つつじなど春の花々を目であじわいながら、海からの涼やかな風を受けて一時間程歩いた後見晴らしのいい海辺で昼食、大多府島をのんびりと歩いた後は今日宿泊する頭島へ渡りました。頭島に到着後、着いた時間が早かったので、ぶらっと島を散策していると、みかん畑があり木の下に落下みかんを大量に発見！落下したみかんは放っておいたら肥料になる運命、拾っておいしく食べた方がみかんもきつと幸せかも・・・。と思い北川さんを先頭に三人程が拾い集めに行きました。持ち帰ってきたら抱えきれない程の量でした。歩いた後の、おみかんは甘酸っぱくてジュシーでとてもおいしかった！夜はカラオケで盛り上がり一日目は更けていきました。

2 日目は、昨日よりも良い天気です。9 時にペンションを出発して、頭島大橋を渡り鹿久居島へ。そこから古代体験のできる「まほろば」まで暑いぐらいの日差しの中を誰一人通らない島を歩きました。二日間のんびりとおいしい空気も満喫して幸せいっぱい帰路に着くことができました。

戸野本



「山遊会」が「海遊会」となる~~~~

日生諸島めぐり

北川

* あした天気になあれ！

この一週間、わたしは決して夫に、えらそうに言わないことを誓います。それから、通販でわんさか服を買ったりしません。だから神様、どうか 4 月 5 日と 6 日を天気にしてください。

もし願いを叶えてくださったら、もう一週間、おやつを食べるのを我慢してもいいです。

まこと真剣、純粹無垢に精進齋して祈りました。エリーゼの「乙女(私)の祈り」が、天に聴こしめたのでしょ、二日間とも快晴に恵まれ、楽しい道行きができて、案内役として本当にほっとしました。

* 4月5日 *

加古川駅 8:53 発の新快速・播州赤穂行き、通勤時間帯でもないのに、ぎゅうぎゅう詰めでびっくり、みんな花に浮かれて、日本列島あっちゃこっちゃへ行くらしい。私達も、いよいよ日生湾から大多府島へ、ささやかな海外旅行だよ～ん。心うきうき、期待にわくわく！

デッキで風に吹かれながら、小柳ルミ子の気分で、島から島へと・・・と、「瀬戸の花嫁」を歌う。

大多府島は、島津藩が参勤交代で江戸へ赴くとき、風待ち潮待ちに寄った島だそうで、当時の水夫の詰所を模した番屋で、地元の小学生の手作り地図を借りて歩き出した。

左手に美しい海を眺めながら、ところどころ緑の木々の間にそっと鎮座します地藏様とお大師様に導かれつつ、島一周の自然探究路 4km のトレッキング。

うぐいすの声や波の音に耳を楽しませ、ぱっと明るい黄色の菜の花や、小さく可憐なすみれの花、紫色も鮮やかなつつじの花、凜と赤い椿の花たちの歓迎は、まさに心のビタミンで癒される。勘三郎が贋金作りをしていた洞窟は、へえ～と思う所にあった。

次の頭島のペンション「おやじの海」に荷を置き、海岸の岩を跳び磯へ降りる。潮だまりにカニ・ナマコ・クラゲを見つけ、わいわい童心に振り返り遊んだ。後便で到着のおやじ(舩賀さん)を出迎えるべく全員で再び港へ。彼の驚き喜ぶ紅い顔を見て、こちらもうれしい。

島内には、中国から若い娘さんたちが人も働きに来ていて、カキの養殖に使うホタテ貝をつないだり、魚網の修理をしたりしていた。故郷を遠く離れ、言葉も不自由な日本へ、勇気があるなあと感心する。

夕食は船盛りの新鮮な鯛やひらめのご馳走に一同大満足し、久しぶりに元気なおやじの演歌熱唱も聞かれたし、河合さんの優しいマッサージを受け、ぐっすりと眠った。

* 4月6日 *

朝めし前にマラソンの人・お風呂に浸か
イエット体操に励む人 etc.

8時、たっぷり腹ごしらえして9時、宿を日は、海の守り神である四国の金比羅さん神輿に乗って、この日生の島々に渡られるだそうで、港の漁船は長い笹に大漁旗を飾っていた。私達も出会いたかったけど、残念間がなく、鹿久居島に向けて歩き始める。は急な用件のため、頭島大橋で別れた。「こま問題の道路特定財源で出来たのかなあ。ど誰もとおらんと無駄使いやで。民主党に情報を教えたるか。」とか、しゃべりながらまほろばの郷へ4.8Kmの標識に従い、いくつもの岬をめぐる。



る人・ダ

発つ。今の分身が祭りの日って待たながら時松下さんの橋、い立派やけ

どこまでも穏やかな海原に、遠く近くほっこりと点在する大小の島影そして白砂青松、日本人のアイデンティティがくすぐられ、来てよかったとしみじみ思う。楽しい仲間とこうして出かけられるのも、家族の支えと健康があればこそで、改めて幸せをかみしめた。



まほろばの郷には、復元された竪穴式住居と高床式住居が13棟あり、ここに宿泊して古代体験研修が出来るようになっている。大きなヤマモモの木が繁っており、その実を食べたり、鹿や狸が多いそうだし、すぐ近くの浜辺で魚や貝や海藻も採れるし、自給自足の生活も面白そうだ。

私達はペンション「おやじの海」で作ってもらったおいしいカキご飯弁当をいただく。

デザートは頭島の山で拾った夏ミカンを一人当たり3個以上、義務として賞味しなくちゃならん。(欲張ってたくさん拾い過ぎ、リュックが重い)

昼食後、高い所を見ると登りたがる今山さんの情熱に引きずられ、てっぺんの展望台まで急なしんどい坂道を上る。が、しかし360度、眼下に広がる瀬戸内海の絶景は、なかなかの値打ちだった。

日生までの帰り船を待つ間、千軒湾の棧橋の近くの広場で、それぞれに、ゆったり刻を過ごす。浜辺で芸術的な流木を探す人、ベンチで昼寝する人、コーヒーを沸かす人、一生懸命に会費を計算する人、おやつを食べながらダイエットについて熱心に論じている女性陣、岩カキをこそいで海水で洗い食する野生人、感想文の宿題に取り組む私、などなど。

3時20分乗船、鹿久居島を出航する。まほろばの郷の管理棟の兄ちゃんが律儀にわざわざ見送りにきてくれ、温かい島の情けに手を振って名残りを惜しむ。15分の短い船旅で、出発地の日生港に戻る。ここで「海遊会」はEND。自由解散する。

* 追記 *

お天気叶えば「一週間、ご主人様をたてる、おやつ返上」と、神様に誓った約束は守ったかと問われれば、NO! であります。女の甘えなんか信用しちゃあいけません。